

(仮称)世田谷区立二子玉川公園基本計画



平成22年6月

世田谷区

1 事業の概要

(1) 公園の概要

- ・ 名称：(仮称)二子玉川公園
- ・ 所在地：世田谷区玉川一丁目16番、上野毛二丁目27・28番
- ・ 公園種別：地区公園
- ・ 公園面積：約6.3ヘクタール
- ・ 都市計画：昭和32年12月都市計画決定

地区公園とは、主として徒歩圏域に居住する人の利用に供する公園のことです。規模としては、区立世田谷公園や区立羽根木公園などと同程度の公園になります。

<位置図>



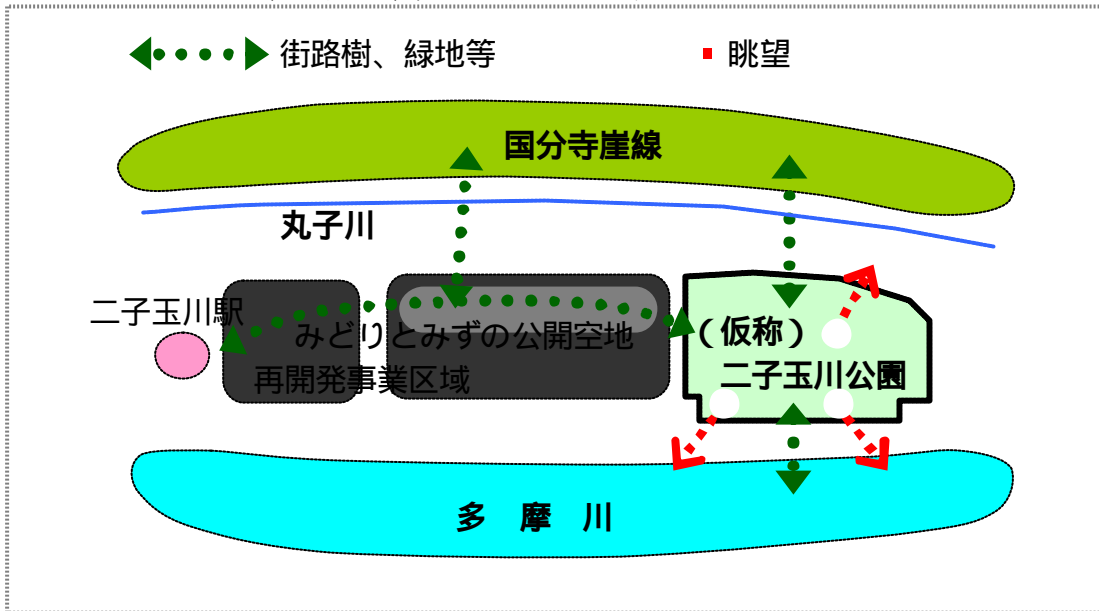
(2) 立地特性と公園づくりの方向性

公園の計画地は、区の中心的商業地域で、東京の西の玄関口でもある「広域生活拠点」の二子玉川駅周辺の南東に位置しています。周辺には、国分寺崖線の「みどり」や多摩川の「みず」などの自然があり、さらには、富士山や丹沢山系等の「山並み」を望むことができるなど、恵まれた自然環境を身近に感じることができる、区内でも数少ない場所です。

これらの環境を活かしながら、二子玉川駅と周辺のみどりを結ぶ「みどりとみずのネットワーク(2頁参照)」の拠点として整備することで、四季を感じ、多様な生物が生息できる魅力ある自然環境を備えた公園にするとともに、みどりとみずの基本計画(平成20年3月)に示す「世田谷みどり33」の実現に寄与します。

公園を震災時の広域避難場所である多摩川河川敷と一体的に整備することにより、河川敷における防災機能を補完するとともに、「防災環境」の向上を図ります。また、計画地の周辺一帯が住宅地でもあることから、子どもがのびのびと安全に遊べる場、高齢者の憩いの場や区民の健康づくりの場、地域イベントが開催できる交流の場などを配置することで「子育て支援」、「生涯現役社会」や「地域の活性化」などにも寄与できる公園づくりを目指します。

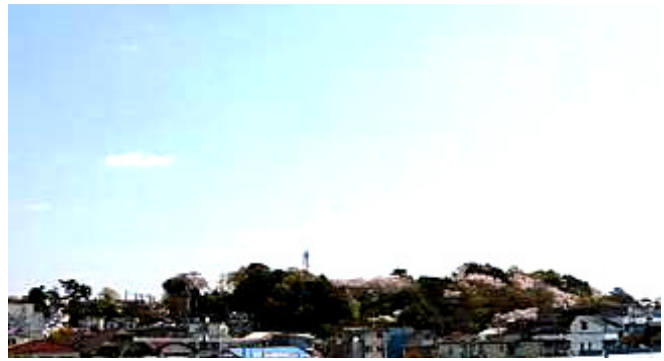
<みどりとみずのネットワークのイメージ>



図中の番号は写真の撮影箇所をあらわしています。



にぎわいの拠点(二子玉川駅周辺)



国分寺崖線への眺望



富士山、丹沢山系への遠景眺望



多摩川河川敷への眺望

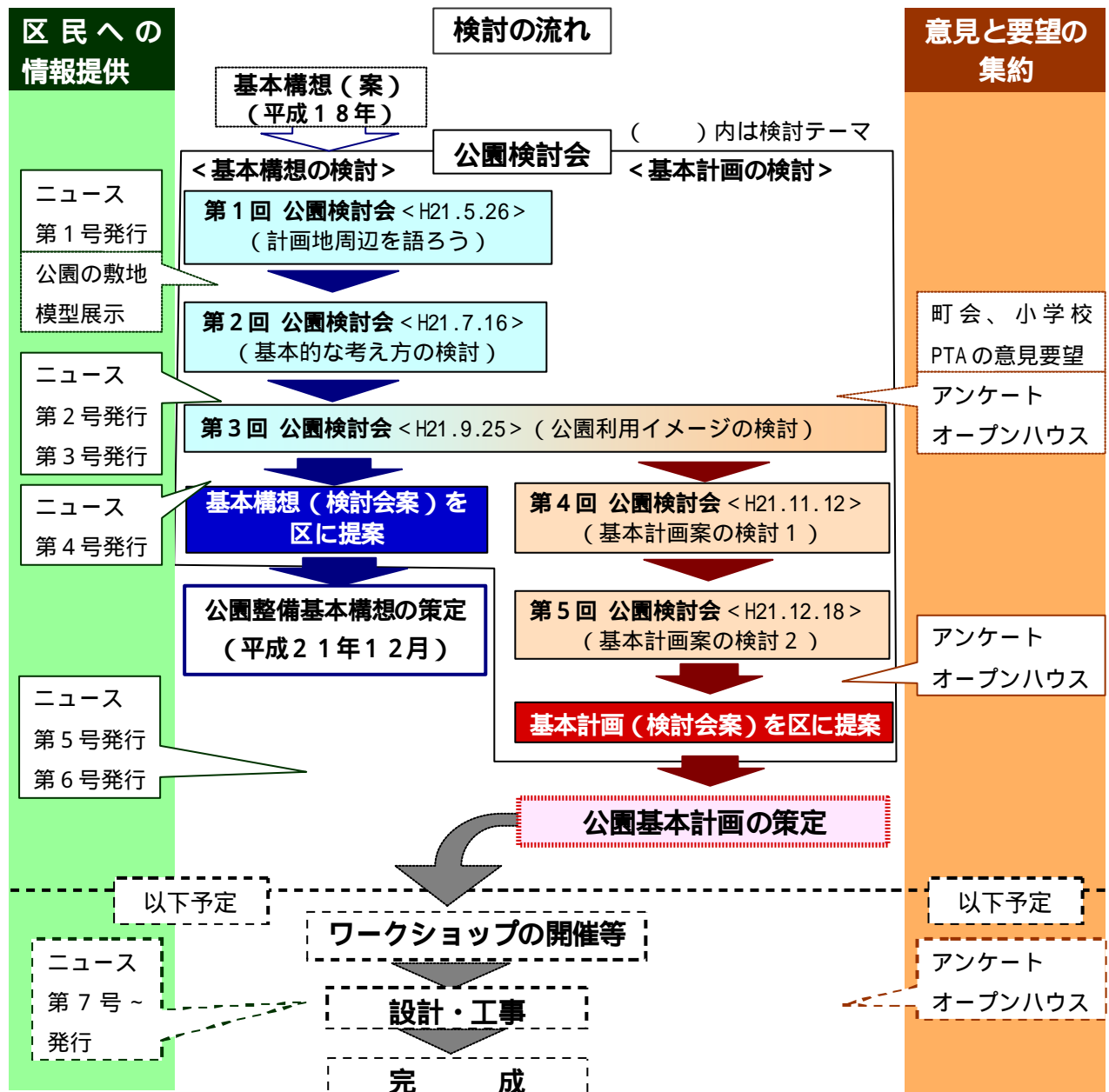
2 検討過程の概要

基本計画づくりに向けた検討は、区民参加による(仮称)二子玉川公園整備検討会(5回開催)[以降「公園検討会」という。]での検討、アンケート(2回実施)、オープンハウス(2回開催)などで収集した区民の意見・要望等を反映する方法で行いました。

(1) 公園検討会

- 1) 検討委員：26名(周辺町会代表、周辺小・中学校PTA、公募区民等で構成)
- 2) 検討期間：平成21年5月から12月に5回開催
- 3) その他：検討の状況は、周辺約6千世帯へ個別配布したニュースや区のホームページなどで、区民に情報提供しました。

(2) 検討の経過



3 (仮称)世田谷区立二子玉川公園整備基本構想(基本的な考え方)

基本構想は、平成18年に区が作成した基本構想(案)をもとに、上位計画等との整合を図りながら、地域住民の代表者等による検討を行うとともに、アンケートやオープンハウスなどによる区民の意見や要望を反映し、公園整備の「基本的な考え方」として策定(平成21年12月)したものです。

基本的な考え方

安全・安心の公園づくり

地域住民が安全・安心で快適な暮らしを営むため、震災や水害など緊急時の公園利用を想定した公園にするとともに、平常時においても防犯性の高い公園とします。

人々が集い・ふれあえる交流の空間づくり

にぎわいの核の拠点としての二子玉川地域にふさわしい、文化的で魅力的な空間を創出します。

みどりとみずをつなぐネットワークづくり

国分寺崖線と多摩川をつなぐ、まとまりのある「みどりとみずの拠点」を創出し、野鳥や昆虫、植物などを通して四季を感じることができ、景観を楽しめる場所を確保します。

憩いと健康の空間づくり

公園を訪れる誰もが利用しやすく、快適で健康に過ごせる、くつろぎと憩いの場所を確保します。

子どもがのびのびと遊べる空間づくり

子どもが自然とふれあい、元気良く遊ぶことができる場所を確保します。

4 公園の基本構成

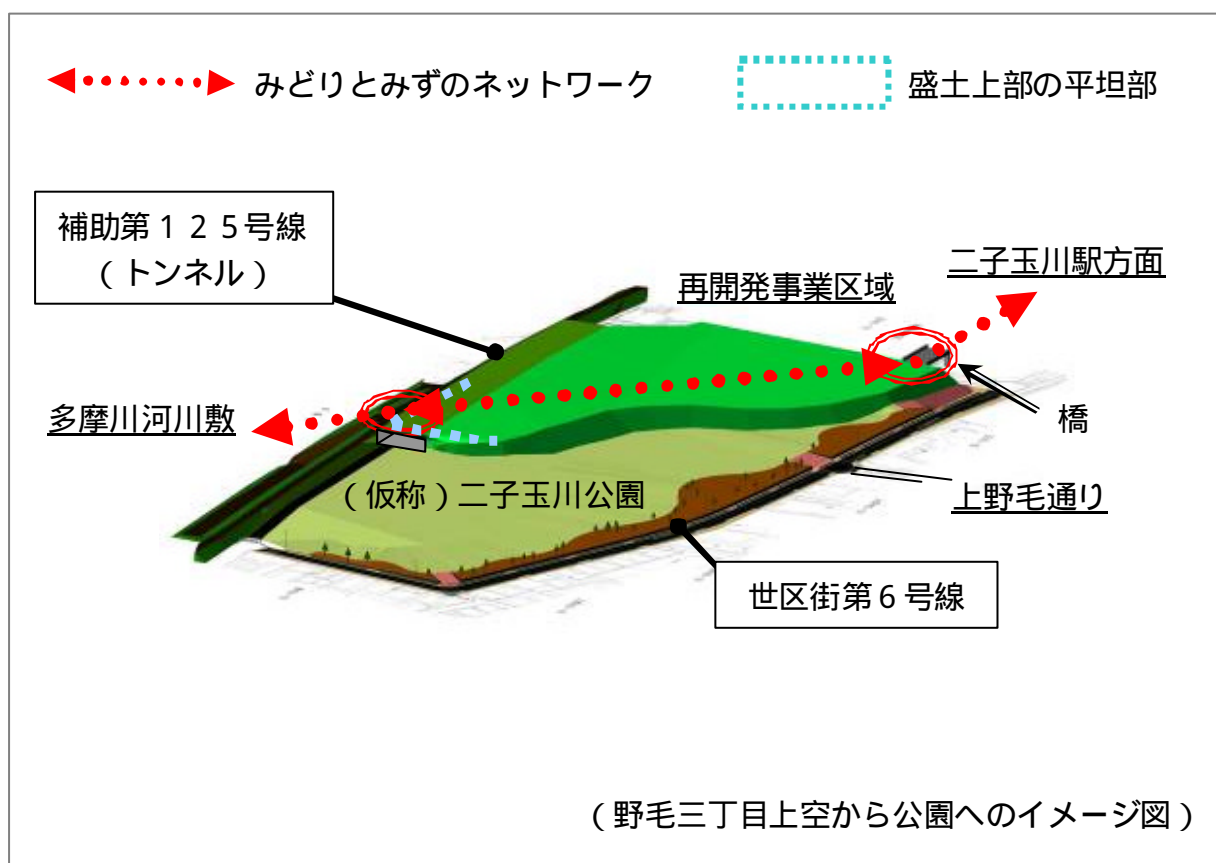
公園計画地周辺の地域特性や「(仮称)世田谷区立二子玉川公園整備基本構想(基本的な考え方)」(4頁参照)をもとに、公園の「敷地造成計画」、「土地利用計画」、「動線計画」を設定しました。

(1) 敷地造成計画

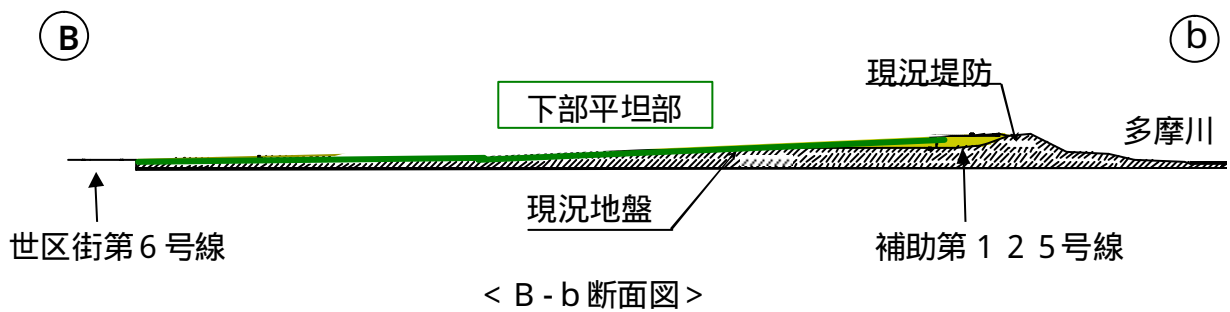
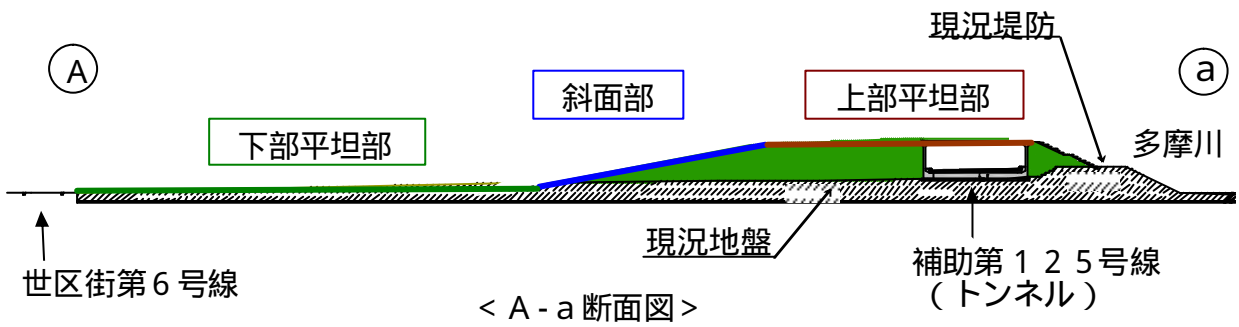
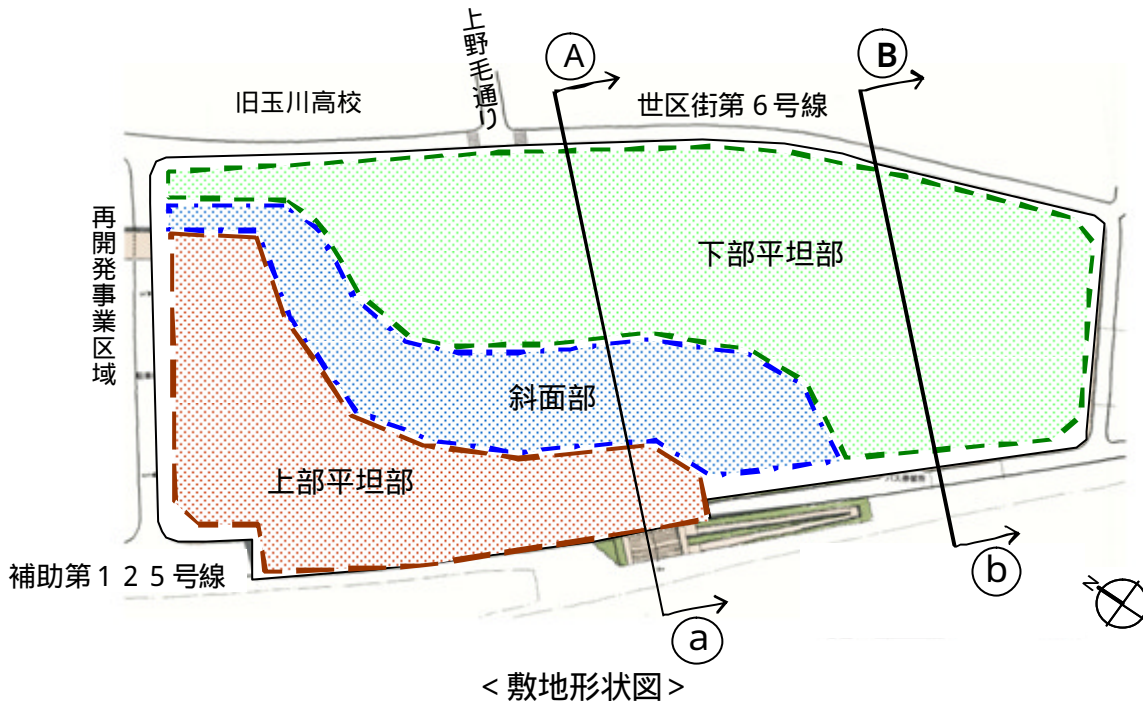
公園と多摩川河川敷の間を通る補助第125号線の一部区間をトンネルにし、その上部を公園とすることで、公園と多摩川河川敷との一体性を確保します。

また、みどりとみずのネットワークを実現するとともに、広域避難場所である多摩川河川敷への安全な歩行者空間を確保するため、敷地の一部を盛土します。盛土の高さは、トンネル上部と再開発事業区域内に整備される人工地盤と同程度の高さとしします。

盛土の上部は、歩行者空間のほかに、公園計画地の特性である多摩川、国分寺崖線、富士山などの眺望をゆっくりと楽しめる広場空間(平坦部)も確保します。

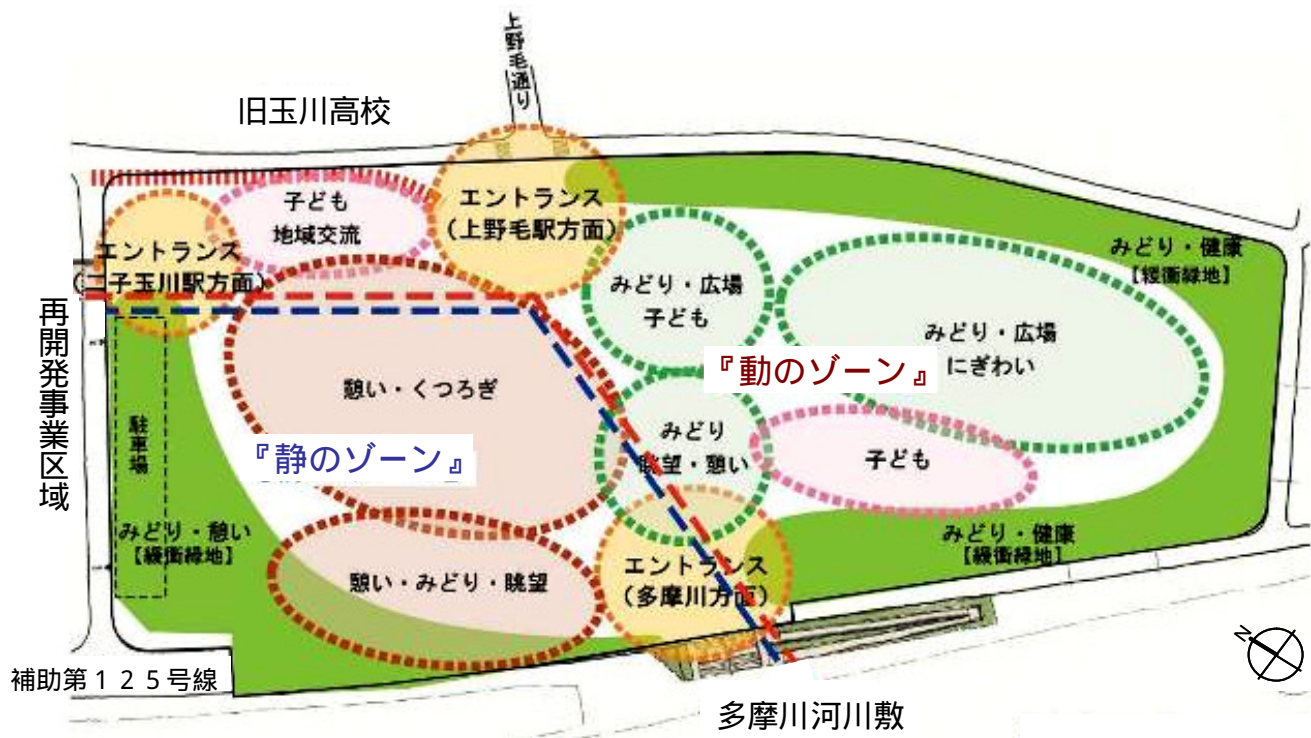


公園内の地盤を高さで区分すると下部平坦部、斜面部、上部平坦部に分けることができます。この地形の高低差を活かした景観形成が可能な土地利用計画とします。



(2) 土地利用計画

「(仮称)世田谷区立二子玉川公園整備基本構想(基本的な考え方)」(4頁参照)をもとに、公園検討会における検討等を踏まえ、大きく二つのゾーンに分け、エリアごとのテーマを設けました。



<土地利用計画図>

二つに分けたゾーンのテーマは、『動のゾーン』、『静のゾーン』とします。

- ・『動のゾーン』は、主に下部平坦部(6頁参照)とし、地域交流、子どもの遊び場、広場等を中心とした「にぎわいのある空間」とします。
- ・『静のゾーン』は、主に上部平坦部と斜面部(6頁参照)とし、富士山や、国分寺崖線等への眺望を活かすとともに、多摩川とのつながりも考慮した落ち着いた空間のある「憩い・くつろぎの空間」とします。

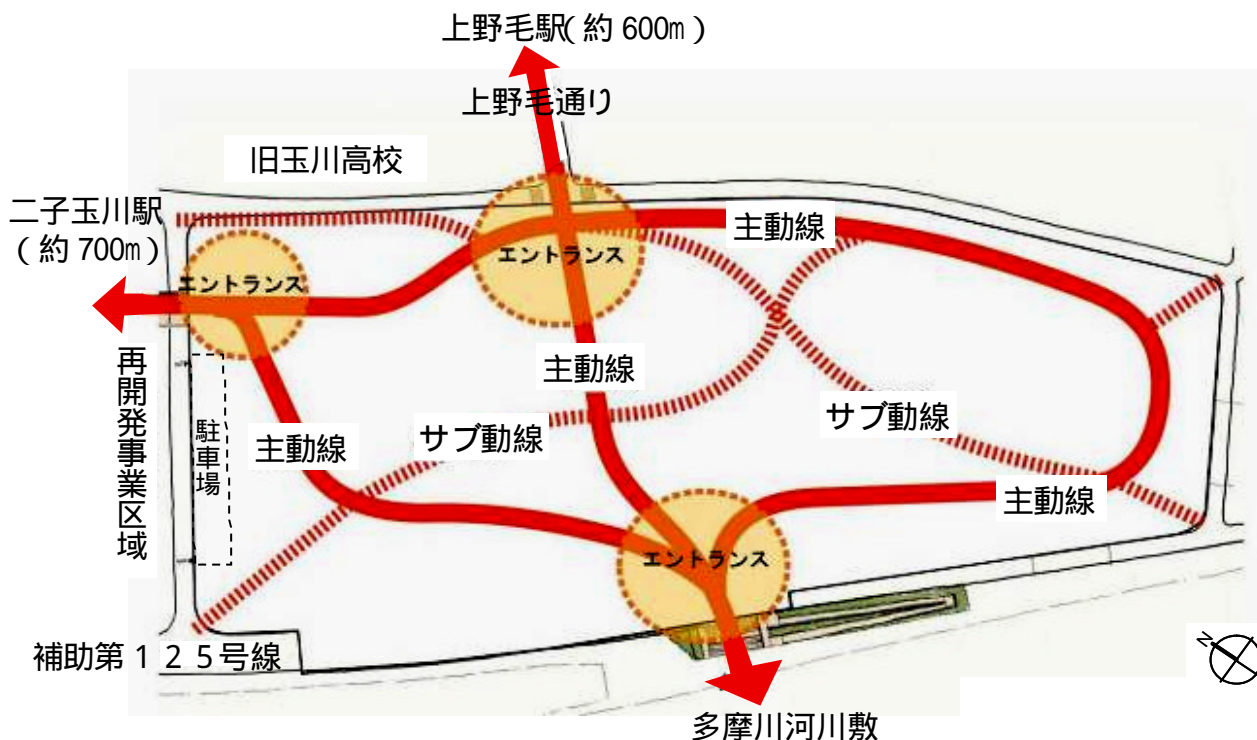
周辺住宅に配慮した公園づくりをします。

(例：公園外周に騒音等を軽減する緩衝緑地の設置等)

主要なエントランスは、二子玉川駅方面、上野毛駅方面、多摩川河川敷方面の3ヶ所とします。

(3) 動線計画

公園内を大きく回遊するとともに「みどりとみずのネットワーク」(2頁参照)や広域避難場所である「多摩川河川敷」を結ぶ主動線と、主動線を補完するサブ動線を設定し、公園内を円滑に移動できる計画とします。



< 動線計画図 >

主動線

- ・ 主要なエントランスを相互に結ぶとともに、公園内を大きく一周回遊するように計画し、利便性や安全性に配慮した動線計画とします。
- ・ ジョギング等のスポーツ利用と散歩利用の双方に対応できる動線とします。
- ・ 広域避難場所である多摩川河川敷への避難経路として機能するように、多摩川河川敷方面エントランスへのつながりを確保します。

サブ動線

- ・ 主動線と、ゾーン内の各施設や主要なエントランス以外の出入り口をつなぐ動線として計画します。

ユニバーサルデザイン

- ・ 誰もが歩きやすいユニバーサルデザインによる動線を確保します。
- ・ 上部平坦部と下部平坦部をつなぐ斜面部(6頁参照)の動線は、円滑な移動を可能にするため階段やスロープを設置します。